

■中村草田男 俳人。人間探究派として大きな影響。桑原武夫「第二芸術論」に反論する「教授病」。

なかむらくさたお

田中正造直訴1901＝ 清国福建省廈門の日本領事館で、領事中村修の長男に生まれる。本籍は松山市二番町。本名は清一郎。母は高浜虚子の縁戚。

日露戦争始・1904＝ 3歳：母と帰国し、愛媛県伊予郡松前町に住む。

日露戦争終・1905＝ 4歳：

満鉄発足・・・1906＝ 5歳：松山市に転居。

アヲヲ 創刊・ 1908＝ 7歳：東京に転居し、番町小学校に入学。

韓国併合・・・1910＝ 9歳：

大逆事件判決1911＝10歳：青南小学校に転校。

明治天皇没・1912＝11歳：

第一次大戦始1914＝13歳：県立松山中学校に入学し、伊丹万作らの同人誌に加わる。

第一次大戦終1918＝17歳：神経衰弱のため休学。

ベルサイユ条約・1919＝18歳：

大暴落・・・1920＝19歳：復学。ニーチェ「ツァラトゥストラ」を読んで感動。

原敬首相暗殺1921＝20歳：卒業。松山高等学入試に失敗。西欧文学を読みふける。

治安維持法・1925＝24歳：一家で東京に転居。東京帝国大学文学部独逸文学科に入学、後に国文科に移る。

共産党事件・1928＝27歳：神経衰弱のため休学、{ホトトギス}に倣って_句作を始め、
世界恐慌・・・1929＝28歳：_高浜虚子を訪ね師事、{ホトトギス}に入会。東大にも復学し{東大俳句}に入会。

満州事変・・・1931＝30歳：

国際連盟脱退1933＝32歳：ようやく卒業し、成蹊学園に就職。
_病気や落第によるきわめて長い学生生活が成熟をもたらし、

二二六事件・1936＝35歳：結婚。*第一句集「長子」を刊行して俳壇に登場。

日中戦争始・1937＝36歳：

第二次大戦始1939＝38歳：_第二句集「火の鳥」刊行。石田波郷・篠原梵・加藤楸邨らと{俳句研究}の座談会に参加し、人間探求派とよばれるようになる。

日米開戦・・・1941＝40歳：第三句集「萬緑」刊行。

敗戦・・・1945＝44歳：

新憲法公布・1946＝45歳：*月刊俳誌{萬緑}創刊。桑原武夫の「第二芸術論」に反論する「教授病」執筆。

新憲法施行・1947＝46歳：第四句集「来し方行方」。

三大事件・・・1949＝48歳：成蹊大学政経学部教授となり、国文学を担当。

独立回復・・・1951＝50歳：

TV放送始・・・1953＝52歳：第五句集「銀河依然」刊行。亡母の納骨のため帰郷。

55年体制始・1955＝54歳：角川俳句賞の選考委員となる。

国連加盟・・・1956＝55歳：第六句集「母郷行」。

美智子妃・・・1959＝58歳：石田波郷・星野立子とともに{朝日俳壇}選者となる。

安保闘争・・・1960＝59歳：現代俳句協会幹事長となる。

タイタイ病始・1961＝60歳：現代俳句協会幹事長をやめ、*俳人協会を創立して会長となる。

東京初ビック1964＝63歳：

大学紛争始・1965＝64歳：成蹊大学文学部教授となる。

美濃部都知事1967＝66歳：第七句集「美田」刊行。成蹊大学を定年退職、以後非常勤講師。

大阪万博・・・1970＝69歳：俳人協会副会長となる。_万国博覧会のタイムカプセル収納品に句集「長子」が選ばれる。

日中国交回復1972＝71歳：紫綬褒章。

石油ショック1973＝72歳：

角栄金脈辞任1974＝73歳：勲三等瑞宝章。

貿易摩擦始・1980＝79歳：第八句集「時機」。

中曽根内閣・1982＝81歳：

デイズ・ニースト 1983＝82歳：急性肺炎となり、受洗して、_没した。

福田和也「日本国怪物列伝」、「この人どんな人」、「没年日本史人物事典」、平凡社百科事典、山田風太郎「人間臨終図巻」、